

令和7年度 部局経営目標

年度	令和7年度	作成日	令和7年4月1日
部局名	政策推進監、学びの創造推進監	部局長名	牧 邦憲
(1) 部局の方向性（テーマ）			
1. 真庭ライフスタイル・「共生社会まにわ」、SDGsの実現 第3次真庭市総合計画に示す、市民の誰もが「真庭ライフスタイル」を実現できる共生・循環型地域社会づくりを目指す。 2. 人口減少対策の取組強化 急速に進む人口減少に対応するため、自然減、社会減に対し、ハード、ソフト両面における対策について、関係課と連携し強化するとともに、多様なステークホルダーの参画を得ながら推進する。 3. 行政経営の推進、dXの推進による市民サービスの向上 市役所の組織力、政策形成能力、政策実行能力の向上による効率的・効果的行政経営（行政dXの推進）に努めるとともに、地域dX、経済dXの取組による、生活支援や産業振興を進める。 4. 地域自治・協働のまちづくりの推進、個性ある地域資源を生かした地域振興 新たな公共の担い手を育成し、地域活動の活性化と地域の魅力アップ、地域力の向上を図ることにより、選ばれる地域を目指す。			
(2) 部局の重点施策			
①にぎわいにあふれ豊かさを 実感できる真庭	(1) 久世校地の利活用など公共施設の最適化の推進 (2) PPP/PFI等の公民連携事業の推進による持続可能な事業モデルの構築		
②夢を持ち、未来を切り開く ことができるひとづくり	(1) 真庭だからできる学びの共創（高校魅力化推進）		
(3) 事業成果目標			指標名及び目標値
●人口減少抑制対策 ○旧真庭高校久世校地の産業拠点機能を構築し、地域での雇用の創出に取り組みます。 ○旧真庭高校久世校地への交流、学び、教育の拠点としての機能を構築し、魅力ある真庭の創出に取り組みます。 ○市内高校入学者数の向上 高校は、真庭の未来を担う子どもたちのより良い成長はもちろん、活気があり持続可能な地域をつくる上でも大切な役割を果たしています。令和7年度は真庭市教育委員会を連携し、高校魅力化に取り組みます。 (以下は教育委員会の取り組み) 令和7年度は以下に取り組みます。 ・高校ごとに魅力化の取組を進めます。 ・勝山高校：進学校としての実績の上積みを目指します。 ・蒜山校地：学校設定教科の充実と学習交流センターを核とした地域と学び合うプログラムの充実による教育魅力化と積極的な情報発信を行います。 ・真庭高校：真庭高校ならではの教科学習の充実、地域と連携した探究的学習活動による教育魅力化と積極的な情報発信を行います。 ・高校2校の管理職が顔を揃えての市教育委員会との定期的情報交換・意見交換の場を設け、引き続き課題解決策を模索します。			

1_高等教育機関等との連携及び誘致促進 ●まにわ地域共創拠点整備事業（真庭高校久世校地跡地利活用） ・市民や市内外の事業者、高等教育機関等と連携し、旧真庭高校久世校地の跡地活用を進めます。 ・サテライトキャンパスの誘致を進めます。 ・校地取得に向け、県との連絡調整を進めます。 ・企業、団体、大学等との産学官連携を強化して、持続可能な事業モデルを構築します。 ●「木」の教育研究拠点整備事業（旧林業・木材・木造建築教育・研究ゾーン構想）」 ・構想を具体的に進めるための会議やミーティングを実施、先進地視察などにより、構想実現のために真庭市として必要な施設・設備の検討を進めます。 ・岡山大学グリーンイノベーションセンターの動きとも整合をとりつつ、インターンシップスキーム、市内事業者受入体制、インターンシップ生支援策を確立します。 ・事業実施にあたっては、国県等の事業を積極的に活用します。	指標：①まにわ地域共創拠点整備事業会議回数、②インターンシップ参加人数、③関係企業数 目標値：① 3 回、②20人、③ 5 社 （令和 6 年度実績値（見込み）：－）
2_「教育魅力化（市としての支援）」 ・地域人材育成のため、市内高校への関わりを深め、魅力ある高校づくりを積極的に支援します。 ・大学等高等教育機関と連携し、サテライトキャンパスを含む、教育研究機能の誘致を目指します。 ・高校、大学、企業等と連携し、教育環境を充実させ、学びを通じて、「地域の魅力づくり」「関係人口づくり」における地域価値の向上に取り組みます。 ・教育・交流をテーマにしたハード・ソフト施策整備を検討します。 （１）ハード：サテライトキャンパスの整備、研究・研修・企業誘致的施設の整備 （２）ソフト：サテライトキャンパスの誘致 ・夢まなび創造基金を活用することで、市内高校で学ぶ者の成長と、夢の実現を後押しします。 （１）市内高校生のチャレンジを後押し （２）地域の課題解決、経済活性化の取り組みを後押し	指標：①サテライトキャンパス誘致②基金を活用した資格受験者数 目標値：① 1 大学② 1 0 人 （令和 6 年度実績値（見込み）：－）
3_久世エリアの公共施設の最適化 ・久世エリアの現状、担うべき役割などを踏まえながら、「真庭市都市計画マスタープラン」のほか既存計画の整合性にも留意しつつ、同エリアにおける施設、行政機能の配置のあり方、整備の進め方などについて、関係部局とも連携し、全体最適化の視点から検討し、より効率的な投資と市民サービスの最大化を図ります。 ・施設の更新にあたっては、「公共施設の利便性向上を通じた市民福祉の向上」を第一目的とし、イニシャルコストやランニングコストの削減、利便性や効率性等を踏まえた複合化や集約化など、総合的な視点で全体調整を行い、財政負担の平準化を図るために、公民連携事業(PPP/PFI)等による民間資金等の活用を検討します。	指標：①整備方針 目標値：①方針の策定 （令和 6 年度実績値（見込み）：－）